

平成24年行政事業レビューシート

(文部科学省)

事業名	全国優秀教員顕彰事業	担当部局庁	初等中等教育局	作成責任者			
事業開始・終了(予定)年度	平成18年度	担当課室	初等中等教育企画課	初等中等教育企画課長 山下 和茂			
会計区分	一般会計	施策名	II-6 魅力ある優れた教員の養成・確保				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	—	関係する計画、通知等	新しい時代の義務教育を創造する(平成17年10月26日中央教育審議会答申) 今後の教員給与の在り方について(平成19年3月29日中央教育審議会答申) 教育振興基本計画(平成20年7月1日閣議決定)				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	学校教育において教育実践等に顕著な成果を挙げた全国の中堅教員を文部科学大臣より表彰し、その功績を広く周知することにより、教員の意欲及び資質能力の向上を図るとともに今後の学校教育の改善に資する。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	学校教育において、①学習指導、②生徒指導・進路指導、③体育・保健・給食指導、④部活動指導、⑤特別支援教育などの分野の教育実践等に顕著な成果を挙げた、全国の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校の中堅教員について、毎年度、文部科学大臣が表彰を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求	
	予算の状況	当初予算	4	3	2.8	2.6	2.6
		補正予算	0	0	0.0	—	—
		繰越し等	0	0	0.0	—	—
		計	4	3	2.8	2.6	2.6
	執行額	3	2	2.7	—	—	
執行率(%)	75.0%	65.4%	99.2%	—	—		
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	目標値(年度)
	本事業を通じて、被表彰者の功績を広く周知することにより、教員の意欲及び資質能力の向上を図るとともに今後の学校教育に資するものである。	成果実績	—	—	—	—	—
		達成度	%	—	—	—	—
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	被表彰者数	活動実績(当初見込み)	人	843	879	847	—
		()	()	()	()	()	()
単位当たりコスト	3,224(円/人)	算出根拠	受賞者1人当たりに要した費用 執行額 2.7百万円/ 受賞者 847人				
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由			
	教職員研修費	2.6百万円	2.6百万円				
	計	2.6百万円	2.6百万円				

事業所管部局による点検				
	評価	項目	評価に関する説明	
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	本事業は、学校教育における教育実践に顕著な成績をあげた教員を文部科学大臣が表彰し、その功績を広く周知することにより、教員の意欲及び資質能力の向上に資することを目的として実施している。文部科学大臣から直接表彰を行うことにより、学校教育の改善及び社会全体の教職に対する信頼感と尊敬の念の醸成を図ることができる。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。		
	-	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。		
資金の流れ、使途・費目・	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	支出先の選定にあたっては十分な広告期間を確保し、妥当性や競争性を確保している。平成22年度までの実績を見直し、納期に十分余裕を持たせるとともに、仕様を見直すことによって単位当たりコスト削減を図った。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。		
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	-	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		
活動実績・成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	文部科学大臣が各教員を直接表彰する制度は本事業以外になく、文部科学大臣から直接表彰を行うことにより、被表彰者のみならず、教員の意欲及び資質能力の向上に大きく寄与し、学校教育の改善及び社会全体の教職に対する信頼感と尊敬の念の醸成を図ることができる。	
	-	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。		
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		
	-	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。		
	-	※類似事業名とその所管部局・府省名		-
	-	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		
点検結果	<p>事業の精査を行い、平成22年度より予算額の縮減を行っている。</p> <p>本事業は、教職員の功績を広く周知するものであること、また、各都道府県教育委員会等における教職員表彰に係る取組を促進することから、教員の意欲及び資質能力の向上に資することとなる。これによって、学校教育の改善及び社会全体の教職に対する信頼感と尊敬の念の醸成を図ることができることから、引き続き本事業を実施することが必要である。執行については、平成22年度までの執行実績を確認・把握するとともに、納期について十分な期間を確保する、仕様を見直すなどにより、経費の節減を図っている。</p>			
予算監視・効率化チームの所見				
現状通り	<p>1. 事業評価の観点：この事業は、学校教育において教育実践等に顕著な成果を上げた全国の中堅教員を文部科学大臣より表彰し、その功績を広く周知することにより、教員の意欲及び資質能力の向上を図るとともに今後の学校教育の改善に資する事業であり、予算執行状況の観点から検証を行った。</p> <p>2. 所見：この事業は、平成22年度に多くの不用が生じたが平成23年度に改善されており、引き続き効率的な予算執行に努めるなどしつつ、現在の事業を実施すべきである。</p>			
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)				
-				
補記(過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)				
<p>新しい時代の義務教育を創造する(平成17年10月26日中央教育審議会答申)： http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05102601.htm 今後の教員給与の在り方について(平成19年3月29日中央教育審議会答申)： http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/07062816.htm 教育振興基本計画(平成20年7月1日閣議決定)：http://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/index.htm</p>				
関連する過去のレビューシートの事業番号				
平成22年行政事業レビュー	0125	平成23年行政事業レビュー	0104	

文部科学省
2.7百万円

教職員研修費 2.7百万円

学校教育において、教育実践等に顕著な成果を挙げた、全国の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校の中堅教員について、文部科学大臣が表彰を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位: 百万円)

A.文部科学省			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
消耗品費等	賞状筒等	1.5			
借損料	会場使用料	0.7			
印刷製本費	表彰状、被表彰者名簿	0.3			
その他	表彰式に係る演奏経費	0.2			
計		2.7	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)